

## その12 珍しい巨樹・タラヨウ

巨樹（地上から1.3mの位置での幹周りが3m以上の樹）は全国で約7万本（環境省登録済み）ありスギ、ケヤキ、クスノキ等が多いが、中でもタラヨウの巨樹は大変珍しく、全国に14本しかない。

何と、埼玉県には2本あり、1本はときがわ町、もう1本は志木市にあります。2本とも幹周りが3m強で、巨樹としては小ぶりである。さて、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、葉には特徴があります。葉に文字を書くと黒く浮き上がります。これはタンニンの化学反応による現象のようです。戦国時代には紙の代用品として、便りやメモ代わりに使っていました。

1997年には「郵便局の木」に制定され、この葉に切手を貼って投函すれば届けてくれるようです。

（本間敏文）



## 生きものフォーラムのお知らせ

第8回生きものフォーラムを開催します。

「クビアカツヤカミキリその後の蔓延と対策」

分布拡大が続いているサクラの外來害虫クビアカツヤカミキリについて、最新の情報や取組を共有するため、下記のとおりフォーラムを開催します。

- 日時：令和3年2月6日（土）13:30～16:30
- 会場：さいたま市産業文化センター301会議室
- 主催：いろいろ生きものネット埼玉

【プログラム】

- 基調講演
  - クビアカツヤカミキリの被害拡散と最新の防除 加賀谷 悦子 氏（国研）森林総合研究所 森林昆虫研究領域 穿孔性昆虫担当チーム長
- 基調講演
  - 外來生物問題を再考する：何が問題なのか、何が必要なのか、そして我々は何ができるのか 大澤 剛士 氏 東京都立大学 都市環境学部 准教授
- 事例報告
  - 行田市での取組 梁瀬 里司 氏 行田市議会議員 議長
  - 埼玉県におけるクビアカツヤカミキリ被害の現状と取組 三輪 誠 埼玉県環境科学国際センター副室長
- フロアディスカッション

## その13 シャジクモ

皆さんは、シャジクモという植物をご存じでしょうか？高等植物の水草のように見えますが、車軸藻綱シャジクモ目に分類される藻類の仲間です。現生の藻類の中では、陸上植物に最も近縁であることが分かっており、植物の進化過程を考えるうえでも重要な存在と言えます。

シャジクモ類は、主に湖沼や水田といった止水域に生育します。水質汚濁や農薬の影響を受けやすく、環境指標性が高い生物です。県内では、湖沼や溜池を中心に21種のシャジクモ類が記録されていますが、水田に生息する“シャジクモ”を除いて、ここ50年近く県内での確かな記録がありません。私自身も50カ所以上のため池に足を運びましたが、未だにシャジクモ類の生育を確認できずにいます。一方、水田からこれまで県内で記録の無かったミルプラスコモが今年の調査で発見されました。今後、県内のシャジクモ類の分布状況を明らかにできればと思っています。

（安野翔）



## 会員のつぶやき

2歳半になる娘がいます。動くものに興味が出てきて、生きものにも興味津々。この秋は自宅玄関前にジョロウグモがたくさん巣を作り、毎日のように巣の場所が変わったり、メスだけだった巣にオスが転がりこんでいたり。そういう変化も楽しんでいますが、家の中では母親が怖がるハエトリグモを見事捕獲して外へポイしたこともあったそうです（力加減ができたかは疑問ですが・・・）。今のところコウガイビルなども怖がらず見ているので、このまま生きもの好きに育ってくれるといいなあと思っています。

（金子孝聡）

## いろいろ生きもの通信 No.8

- 発行日 2020年11月1日
- 発行 NPO法人 いろいろ生きものネット埼玉
- 事務局 さいたま市大宮区大門 3-205ABCビル303
- e-mail [iinenet.saitama@gmail.com](mailto:iinenet.saitama@gmail.com)

# いろいろ生きもの通信

NPO法人 いろいろ生きものネット埼玉

## 第6回生きものフォーラム報告

当会では、生物多様性などの課題について、多くの方々や情報や意見を交換する場として、「生きものフォーラム」を定期的に開催しています。第6回目は次のとおり開催しました。

県民参加生きもの調査 ～結果をどう活かすか～

日時 令和元年10月16日(水) 13:00～16:30

場所 埼玉会館7B会議室

参加人数 90名

【プログラム】

- 基調講演 13:10～14:10  
「市民による自然環境モニタリング調査の意義」 福田真由子(公財)日本自然保護協会
- 基調報告 14:10～14:50  
「県民参加モニタリング調査結果」 牧野彰吾(NPO法人 自然観察指導員埼玉)
- モニタリング活動事例報告 15:00～15:45  
三上忠仁(NPO法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団) 天田真(NPO法人 エコシティ志木) 茂木守(NPO法人 いろいろ生きものネット埼玉)
- フロアディスカッション 15:50～16:30  
「調査結果をどう活かすか、どう繋げるか」 進行：星野弘志(NPO法人 いろいろ生きものネット埼玉)

主催者あいさつ (NPO法人 いろいろ生きものネット埼玉 脇坂代表理事)：毎年30数団体が参加し、10年間続いた県民モニタリング調査が終了した。調査記録を県民への広報や学術研究に活用し、今後の調査へつなげて行く方策を考えたい。

来賓あいさつ (埼玉県環境部みどり自然課 島田課長)：2009年から行ってきた県民モニタリング調査の成果を今後の自然保護行政に活かし、県の生物多様性保全戦略に基づいて県民への理解を求めていきたい。

基調講演：生きものが生きるためには、生きもの同士のつながりが必要である。身近な生物種が私たちの資源であり、宝庫でもある。モニタリング調査を人に例えると定期健康診断である。モニタリングサイト1000里地調査は、市民調査員が主体の調査で、全国18か所の里地のコアサイトでは長期的・総合的な調査、200カ所以上の一般サイトでは短期的な調査を行っている。福井県の中池見湿地では、市民調査データがラムサール条約湿地として登録される根拠となった。市民による自然環境モニタリング調査では、①保全施策と指標改良の結び付き、②多くの研究者との協力体制、③



地理的サイトの配置改善、④調査員の確保、⑤結果の解析、事例共有が重要である。

基調報告：3年間の外來生物調査の調査地は全837メッシュであった。緊急対策外來種、重点対策外來種、その他の総合対策外來種、産業管理外來種は河川敷で多く確認された。外來種侵入被害の実態把握が重要。外來種は雑木林にはほとんど入って来ない。モニタリング調査で、「あった」は容易に言えるが、「絶滅した」は言いにくい。また、報告件数の多さは、分布域の大きさの現れである。

モニタリング活動事例報告：NPO法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団は希少種調査、社会教育などの活動内容を紹介した。県モニタリングでは、調査の手薄なメッシュを補足するように実施した。NPO法人 エコシティ志木は環境保全、調査・研究、学習・教育、出版広報などの活動内容を紹介した。初期の県モニタリングではホンダカヤネズミやカダヤシなどの調査を行った。NPO法人 いろいろ生きものネット埼玉は、主な活動内容や県モニタリング実績を紹介し、調査上の課題、留意点等を具体的に示した。

フロアディスカッション：県モニタリングは均一な調査ではなく、公平性や正確性にやや欠けるかもしれないが、様々な角度からデータ処理や分析することも必要である。行政的には県民からの問い合わせや外來生物対策に活用できる。地域の市民調査で詳細な情報を残すことは有用で、研究者が活用することも重要である。調査データは市民の地域活動のネットワーク化の成果で、行政へ対策を依頼する際の根拠とすべきである。クビアカツヤカミキリに関する情報をもっと公開し、防除につなげることが重要である。

最後にご参加いただいた皆様、ご講演いただいた方々、ご支援をいただいたサイサン環境保全基金様に心よりお礼を申し上げます。（茂木守）



## 県民参加生き物モニタリング調査10年を振り返る

県民参加型のモニタリング生物調査は平成21年、県環境部の提案によりはじまることとなりました。当時、環境にかかわる保全活動団体はそれぞれ異なる目標に基づいて独自の活動を行っていましたが、この調査に参画することで共通の活動基盤を持ち合わせることになりました。参加団体は調査当初14団体でしたが年度ごとに入れ替えがあり、ほぼ40団体で推移しました。

開始時は県内の生物多様性の変遷を把握しようとする目的でしたが、動植物の種数が多く調査対象を絞る必要性から、在来種（希少種含む）・外来種のうちよく見かける動物40種・植物50種を指定種として定め、指定種以外は任意調査種として調査結果に加えしました。指定種は年度ごとに入れ替えがありましたが直近3カ年は外来生物に的を絞ることになりました。指定の規模は動植物合わせて100種ほどで推移しました。

こうしたモニタリング調査において、広く県内で活動する環境保全系任意団体が連携をしたことはおそらく最初の試みではなかったかと思えます。調査範囲も当然広域に及びました。そうした調査の中で、最終的には外来種調査に力点を置いた結果、外来種の県内動向が次第に明らかになってきたことを実感しました。

過去の文献と比較しつつ今回の調査結果を分析すると外来種にもいろいろなタイプのあることが明らかになりました。例えば急激に分布拡大した例にアレチウリがあります。県内では1972年川越初出以後、拡大に拡大を続け今ではマント群落のクズにとってかわるような勢いになっています。また、急激ではありませんがじわじわと分布を広げているもの、分布はほぼ飽和状態に達しているもの、小規模のままほとんど変化しないもの、一期一会のような振る舞いをするもの等、調査結果は外来種にそれぞれの個性があることを明らかにしました。外来種をひとくくりにして論じるのは無理があります。また外来種が人間生活に著しい被害をもたらしている例は、本県ではアライグマなど特定の数種に限られることなども把握することができました。

調査終盤の段階で特定外来生物に大きな動きがありました。一つはクビアカツヤカミキリです。急遽、調査対象種として追加し23団体から287件49か所27三次メッシュの被害報告があり、草加・熊谷・深谷・行田で猛威を振るい始めている実態が明らかになりました。現在は鴻巣まで広がって



クビアカツヤカミキリ成虫



ナルトサワギク

いるようです。もう一つはナルトサワギクです。調査最終年度である平成30年に朝霞市ではじめて分布が確認されました。こちらは発見してすぐに駆除が始まりました。生育範囲が狭いことから地元団体の皆さんが一草残らず駆除する行動に出ました。その結果、抑えられたと一度は判断しましたが、その後ポツポツと発芽があり長期戦になりそうな気配があります。いずれもモニタリング調査が継続している過程で早期発見が得られた貴重な結果であるといえます。このようなモニタリング調査は定期的を実施することで本県生物多様性の動向を正確につかむことができ、環境変化の解析に役立つものと考えます。（牧野彰吾）

### サイエンスカフェを開催開催します。

レッドリストは種の多様性保全に貢献しているか  
—レッドデータブックの活用法—

- 日時：2020年12月11日（金）18:30~20:00
- 会場：オンライン Zoomミーティング
- 講演者：牧野彰吾（NPO法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団代表理事）
- 参加費：無料 定員：70名
- 参加方法：下記メールアドレスに「サイエンスカフェ参加希望」と記入しメールをお送り下さい。
- 申込先アドレス：iinenet.saitama@gmail.com

## サイエンスカフェを開催しました

2019年11月27日に、当会と埼玉県環境科学国際センターとの共催でサイエンスカフェを開催しました。サイエンスカフェとは、シンポジウムなどとは違い、専門家を交えコーヒーなどを飲みながら気軽に科学について語り合う場です。

サイエンスカフェのテーマは「温暖化で鹿が増え過ぎている？—県内の森林被害の現状と対策—」として行いました。今埼玉県内でも問題となっているニホンジカについて「埼玉の森林を考える会」で調査活動等を行うとともに、ハンターとしても活動している森田厚さんをスピーカーに迎え、ファシリテーターを埼玉県環境科学国際センターで野生動物の研究を行っている角田裕志さんをお願いし開催しました。

埼玉県でもニホンジカが増加し、秩父の森林ではズズタケなどの林床植生が消失したり、植生が単純化している森が増えていることや、それに対し県は特定鳥獣保護管理計画（ニホンジカ）を策

定し、メスジカの狩猟解禁や捕獲頭数の緩和、民間委託による管理捕獲の実施などを行っていることが紹介されました。その後、参加者と活発な意見交換が行われ、最後に、お楽しみタイムとして鹿肉ソーセージの試食イベントが行い、会は盛況なうちに終了しました。（嶋田知英）



サイエンスカフェでの鹿肉ソーセージの試食

## キマダラカメムシ:2020年までの埼玉県内の分布

最近サクラではクビアカツヤカミキリが超有名、暖冬年の秋に多発する赤茶色のケムシ（モンククロシャチホコ）も有名。

本稿では南方系のカメムシ目キマダラカメムシ *Erthesina fullo* (Thunberg) (写真上) の分布を紹介する。写真下のクサギカメムシ *Halyomorpha halys* (Stål) に似るが、やや大きく黒っぽく黄斑、幹や葉にとまっている。元来中国や台湾に多く西日本にも広く分布している。中国では果樹の害虫として知られている（平井, 2012）。

筆者は小金井市の都道247号府中小金井線のハナミズキ並木で成虫を観察（平井, 2011）、その後分布の北進と生活環を調査した。

最近寄せ書きに報告された各地の観察例に2020年までの清瀬、熊谷、上尾、さいたま市内のサクラ、ハナミズキ、ケヤキなどの例を整理した。

越冬後成虫は4月からサクラやハナミズキ、ケヤキの幹や葉で見られ、その交尾対、卵塊、幼虫も観察された。

10数卵の卵塊は5~7月まで葉裏に多く見られた。8月以降、産卵はなく新世代成虫が目立った。

観察は県南に多く一部上尾、熊谷でも観察された（右図黒丸地点）。

成幼虫は樹幹の樹皮に口吻を挿して吸液していた。果樹ではプラムの成熟果が吸汁されている例を観察した。（平井一男）



キマダラカメムシの交尾6月



クサギカメムシ 8月



● :2015~2019年観察のキマダラカメムシ観察地